

恩師の言葉 私の道標

大学時代の恩師の言葉「それは新しいのか、それとも役に立つのか」は工学の本質を示しており、今でも私の道標である。

経済的に苦労した母の影響だと思うが、高校時代は「楽な仕事で高い給料」を夢見ていた。古典が得意科目なのに理系を選択したのも就職に有利と考えたからだ。しかし、大学で遭遇した社会基盤工学という学問が、浅はかな考えを変えた。万人の生活を支える技術に惹かれ、能力を惜しみなく世界にささげた土木技術者たちの

凛としていきる

理系女性の挑戦

人の役に立つ新事業を成す

偉業に憧れた。利潤を奪い合うのではなく、人が喜ぶ事業を成すことによって対価を得たいという願望を持つようになった。

入社した鉄道会社の事業領域は想像以上に広く、東北地方の新駅



計画、「エキナカ」という単語がまだない時代のエキナカ開発、出向した銀行では不動産ファイナンス、本社に戻りM&Aと、次々と新しい仕事を担当した。

特に未知の事業を推進する場合は技術職の範疇と異なる技

はさほど必要でなく、誰かに面倒そうな顔をされても「地球のためですから」と笑顔で省エネを徳憑（とくへい）できる胆力が武器となる。

迷ったときは冒頭の道標に立ち返り、社会に必要とされる仕事は何かを考える。最近

進める場合は技術職の範疇と異なる技量が必要だ。2年ほど前から担当している環境マネジメントでも設備や建築といった知識

一方でプライベートは、結婚、離婚、妊娠、「もう結婚しない」宣言を覆して再婚、と道標がない。「ワークライフバランス」という

言葉も少し苦手だ。私は3歳の息子が何よりもいとおしい。子供が熱を出して苦しんでいるときは、仕事の手につかない。普段でも起きている顔が見たいから、できるだけ早く帰りたい。体力が人並み以下なので睡眠も重要だ。

だから1分1秒でも早く仕事を終えるために効率性を追求する。突発の休みに対応するためにメ切的2日前を目標して働く。あまり悩むことなく上司に相談してしまうし、後輩にはほとんどん仕事を任せてしまう。必然的に、出産前と仕事のスタイルは変わったと思

「もう結婚しない」宣言を覆して再婚、と道標がない。「ワークライフバランス」という



＜プロフィール＞愛知県出身。01年東大院工学系研究科社会基盤工学専攻修了、同年JRE東日本入社。JWEF個人会員。

JR東日本 事業創造本部 経営戦略部門  
ビル・エネルギーマネジメントG 主席  
久留宮 優佳

▽ (火曜日に掲載)